

名寄高新聞

吹奏楽・陸上特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020.10.30

発行責任者 小田桐 知哉

日本管楽合奏コンテスト予選通過

吹奏楽部が初の全国



初の全国大会出場を決めて喜びの吹奏楽部

同じ意識・同じ息遣い心掛ける

第26回日本管楽合奏コンテストの予選審査結果が10月3日にWEB上で発表され、名高吹奏楽部が見事全国大会への出場権を獲得した。吹奏楽部が各種大会で全国に出場するのは初めて。

日本管楽合奏コンテストは日本音楽教育文

化振興会が主催する全国規模のコンクール。特色は予選を学校名を伏せて録音審査で行うこと。名高吹奏楽部は3人以上15人以下で演奏するS部門に出場。雄大な曲調や軽快なリズムからなる「リバーダンス」を演奏して全国を射止めた。

「リバーダンス」はアイルランドの伝統音楽の影響を受けた楽曲。木管楽器がメロディーを、金管楽器がその背景作りを担当するのが特徴。役割ごとに分かれて練習し、合奏のときにみんなでアドバイスし合いながら曲作りに励んだ。さらに15人編成のため、打楽器も含め1人が2、3個の楽器を掛け持ちしながら演奏した。

水口綾乃部長(2A)は「初出場の管楽合奏コンクールで全国大会に出場でき、とても嬉しい。最初は全員の演奏がまとまっていなかったけれど、秋合宿や色々な会場でいった演奏会を通して、お互いが同じ意識・同じ息遣いで演奏しようという気持ちが高まっていった。その結果、演奏会などで自分たちの成長を実感することができた。楽譜を編曲していただいたり、演奏の機会を設けていただいた、先

生方や関係者の皆さんには感謝してもしきれない」と振り返った。

今年度の全国大会は新型コロナの影響で映像審査で実施。吹奏楽部は24日に美深町文化会館COM100で収録に臨み、心をついに調和した演奏を響かせた。

顧問の山本真平先生は「大会に向けた練習や演奏会でみんなが成長してくれた。1人1人やる事が多く忙しい中、最後まで集中を切らさずよく頑張ってくれた。11月15日には2度目のなにいコン서트も開催予定で、1月にはアンサンブルコンクールも控えている。1つ1つの本番をこれからも大事にして、さらなる成長を目指したい」と話した。

なお、同全国大会は11月21日にインターネットで配信。1000円の配信チケット(観客投票権付き)を購入すると視聴できる。

全道新人陸上大会:室蘭入江競技場

女子 5000mW 笠原さん8位入賞



5000mWのスタートを切る笠原咲月さん(左から3人目)

9月23日に北海道高等学校新人陸上競技大会が室蘭市入江陸上競技場で開催され、女子5000mWで笠原咲月さん(2C)が見事8位入賞を果たした。

笠原さんは大会前、歩くペースや位置取り、歩形などを試行錯誤しながら調整し、レースに臨んだ。大会では入賞枠8位以内を目指し、テッドヒートを繰り広げた。最後の2周は鉏路湖陵の選手と8位をかけて、熱い駆け引きを展開。何度も順位が入れ替わる

(裏面へ続く)

激闘となったが、最後は僅か1秒差の33分5秒34で8位を死守し、見事入賞を飾った。

市川聖監督は「8位になって本当によく頑張った。元々体力、スピード等があった選手ではないので、努力の成果を大きい大会で発揮できたのは大きな評価に値する。冬はもう一度基礎体力を付けて、全国大会を目指して気持ちを切らさず頑張してほしい」と入賞を称えた。

笠原さんは「目標としていた全道入賞を達成できて嬉しかった。しかし、周りの選手のレベルがとても高く、課題ができたという思いが嬉しさより大きかった。これからの冬練習では基礎的な体力などをしっかり身に付けて、高体連で自己ベストを出せるように頑張りたい」と先を見据えた。